

ひかり

令和8年2月27日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年学年便り 3月号

「ひかり」のあなたが入学してから71か月。いよいよ、小学校生活最後の3月を迎えます。「ひかり」という学年名のもと「自らをきりひらく子」に向かって過ごしてきた日々。自分のために、仲間のために、みんなのために「ひかり」輝こうと頑張ったことがたくさん思い出されることでしょう。

2月13日。「きぼう」が中心となり六年生を送る会が開かれました。会の中では「ひかり」を含め、どの学年も笑顔が輝いていました。その日の日記には「みんなからの『ありがとう』が伝わってきた」「どの学年の出し物も嬉しかったし、特に全校でケセラセラを踊って演奏してくれたことが本当にすごくて、とっても嬉しかったです」という言葉がありました。さらに「去年の自分たちの頑張りが返ってきた気がした。頑張ってきてよかった」という言葉もありました。あの日あの時間に体育館に溢れた「ありがとう」は「ひかり」のあなたの頑張りの鏡です。学校の仲間のために自らをきりひらくと努力した結果。あなたの「ひかり」が輝かせたものだと思います。

附属小生活のゴールが見えてきた今、学校生活の中で培ってきた「自らをきりひらく」という姿勢を、学校外でも発揮する仲間の姿があります。

～…バス停に着いたとき、僕は車椅子優先席に座っていました。その時、ヘルプマークをつけたおばさんが乗ってきました。誰であれ不自由な人への優先席だと考えていたので、席を譲りました。その後、感謝をされました。すごくうれしくて、親切にしてよかったと思いました。

「ひかり」の仲間の日記より

こういうシチュエーションに覚えがある人も多いかもかもしれません。こんな時「こうした方がいいんだろうな」とわかっていても「話しかけるのは緊張するな」「自分も座っていたいな」という気持ちが生まれます。「こうした方がいい」を行動に移すことは簡単なことではありません。まして、全く知らない人が相手ならなおさら。しかし、それに打ち勝ち、意を決して話しかけ、席を譲ったこの姿は、まぎれもなく自らをきりひらいた姿の一つと言えるでしょう。そして、自らをきりひらいた結果、自分の満足感だけでなく、誰かの嬉しさにもなっている。「自らをきりひらく」は、自らの「ひかり」を強め、誰かを照らすことのできるものとなるのが、この日記から分かります。

97人全員が、誰かを照らすことのできる「ひかり」をもっています。今のあなたはどのくらい「自らをきりひらく子」に迫り、どのくらい「ひかり」を強めているのでしょうか。これまでの歩みの中で、嬉しいことや楽しいことだけでなく、大変なことや苦しいこともあったと思います。でもそんな日々を経て、残りの小学校生活は12日間となりました。私たちは、これまで培ったあなたの「ひかり」に自信をもって、中学校への一步を踏み出してほしいと願い、最後まで共に歩んでいきます。

保護者の皆様。現在「ひかり」の子どもは「お別れ遠足」を終え、卒業式に向かって邁進しています。子どもが全ての小学校生活を終え、この附属小を去るまで残りわずかとなりましたが、最後までお力添えのほどよろしくお願ひします。皆様の支えがあったからこそ「自らをきりひらく子」に向かって、学校での日々を自分の手でつくること、仲間とともに議論し、つくりあげていくことによさを感じながら過ごせたのだと思います。最後になりましたが、6年間本校の教育活動へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。